

### 1 自己評価及び外部評価票

【 事業所概要(事業所記入) 】

事業所番号	2090500048		
法人名	特定非営利活動法人 心		
事業所名	グループホームげんき		
所在地	長野県飯田市座光寺3601-12		
自己評価作成日	平成27年6月19日	評価結果市町村受理日	平成27年9月28日

【 事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入) 】

<p>・地域密着のホームとして、地域との関わりを多く持ち、共に暮す環境づくりをしています。                  ・利用者の人格の尊重と快適な毎日の生活を重視しています。</p>
---

※事業所の基本情報は、公表センターで閲覧してください(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/20/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=t_rue&amp;JigvsvCd=2090500048-00&amp;PrefCd=20&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/20/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=t_rue&amp;JigvsvCd=2090500048-00&amp;PrefCd=20&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【 評価機関概要(評価機関記入) 】

評価機関名	NPO法人 福祉総合評価機構 長野県事務所
所在地	長野県飯田市上郷別府3307-5
訪問調査日	平成27年6月22日

【 外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入) 】

<p>ご開帳で賑わった元善光寺の門前近くにあるこのグループホームは、以前から地域との関わりを多く持ってきた。さらに自治会に個人加入してごみ当番や川掃除に出たり、地区の運動会にも参加したりするようになってきている。そして、運営推進会議に地区長が出席するようになって、ますます地域との繋がりが深くなってきている。また、消防署・消防団の協力を得て地域一体となった避難訓練を実施して災害対策についても万全を期している。                  利用者がその人らしく生きていこうと支援するために、「利用者が変わってもらうのではなく、利用者の生き方を否定しないで、自分自身がどのように変わっていくかが大切だ」と話す職員の生き生きとした姿が印象的であった。</p>
--

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します。ユニットが複数ある場合は、ユニットごとに作成してください。**

ユニット名( )		項目		項目	
		取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)			取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23, 24, 25)	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目: 9, 10, 19)	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18, 38)	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2, 20)	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目: 36, 37)	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (11, 12)	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目: 30, 31)	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目: 28)	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない			

自己評価および外部評価票

※「自己評価の実施状況(太枠囲み部分)」に記入をお願いします。〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をもとに定例会議(職員会議、ケア会議)を行い、実践における具体策等を話し合っている。	「共に笑い、共に楽しみ、共に悲しみ、共に生きる」という理念を基に、四つの基本方針を立て実践に活かしている。食事の準備を職員と一緒にやり、一緒に楽しんだり、利用者の葬儀にも出て一緒に悲しんだりして、共に生活しているという実感を互いに共有できるように働きかけるようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	自治会や地元の行事への参加、又日々の散歩やご近所との挨拶により顔なじみとなっている。	自治会への参加が法人枠から個人枠へと変更になり、ごみ当番や川掃除なども積極的に行うようになった。以前から継続している夏祭りの参加や座光寺保育園との交流の他に、地区の運動会への参加も増え、さらに地域とのつきあいが深まってきている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会出席時やご近所の方との会話により、質問を受けたり、情報提供をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二か月に一度、運営推進会議を開き、家族代表・民生委員・地域包括職員にホーム内の状況説明をし意見を頂き、取り入れている。	4月から運営推進会議へ地区長も参加するようになり、さまざまな問題を話合うことができています。近所の方からの苦情の対応や、外への徘徊についての対応などを話し合い、よりよい方法を検討してきた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月の事業所連絡会に出席し、情報の提供や収集をしている。	運営推進会議には、いつも地域包括センターの職員の参加があり、さまざまなアドバイスを受けている。また、毎月の事業所連絡会には出席し、情報を収集したり、提供したりして市の担当者と連携を取っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定例会議や毎日の申し送りにおいて拘束の無いケアを心がけている。	鍵は夜間や緊急時以外には掛けないようにし、ベッドは今年転倒した方には家族の了解を得て柵を設置しているだけで、身体拘束をしないケアに努めている。利用者の中にはよく外へ出る方がいるので、職員がなにげなく出て対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定例会議を通し理解を深め、虐待防止に努めている		

グループホーム げんき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会等への積極的参加を目指したい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前に契約内容の説明を行い、質問や要望を聞いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者との日常の会話や、面会時の家族とのやりとりにおいて意見をお聞きし、反映している。	これまで行事を通して家族会を行っていたがとりやめになり、利用者とのコミュニケーションや面会時の家族との話し合いを重視することにして、ホワイトボードに記録して職員が共有できるようにしている。運営推進会議には家族代表の参加を得て、意見や要望を出してもらっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定例会議において、話し合いを行い反映している。	月1回の職員会議には理事長も参加し、職員の意見や提案を聞くようにしている。また、毎日の記録を見て、管理者とケアマネジャーが一緒になって職員会議やケア会議の話題を取り上げるようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の要望の吸収に努め、職場整備の改善を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会の情報を提供し、業務中の指導や話し合いを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームの集いに参加し、ネットワーク作りや情報交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者本人との面談の中で、今までの生活状況の把握、今後の不安を聞き取り、安心できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面談の中で、家族の要望や不安を把握し、安心して支援させて頂く関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の状況を把握し、スタッフ間で共有しケアに繋げ、家族には入所後の状況を密に連絡している。他のサービス導入も柔軟に対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活を共にする者として、日々の楽しみを見つけ、分かち合える関係づくりに心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と共に本人を支えて行けるよう、お互いの意見が言える関係を目指している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	生活歴に伴い、友人と連絡を取ったり、馴染の場所に出かけたりと、本人のご希望に添えるよう心がけている。	家族・親戚や友人・近所の方が訪問する際には、部屋やホールを使って、話をしてもらっている。また、近所の理容店や美容院に出かけるようにして、馴染みの関係を維持するように支援している。盆や正月に実家に帰る利用者は現在いない。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員の声掛けや、座る場所などに気を配り、孤立する利用者が出ない対応をしている。		

グループホーム げんき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も、必要に応じて関係が保て、支援できる対応をしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常にコミュニケーションを取り、その中から支援の具体策を探っている。センター方式も取りいれている。	利用者とのコミュニケーションを大切にし、その時の表情や様子などから希望や意向をくみ取るようにしている。そして、センター方式の「私の姿と気持ちシート」などを活用して、職員の共通理解が進むようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人との会話や家族からの情報、また入所時の申し送りなどから状況把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	コミュニケーションの中から、現状を読み取るよう、心がけている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定例会議にて、モニタリングを行い、見直し、利用者や家族の要望を取り入れた介護計画書を作成している。	「モニタリングシート」を活用してアセスメントを行い、利用者の思いや状態の変化を介護計画に反映できるようにしている。また、「ひもときシート」を活用して解決の道筋を把握するようにしている。こうしたセンター方式の利用が実践に活かされている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日誌や個別の介護記録により状態把握、共有ができており、介護計画書に反映されている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	リハビリやマッサージの提供ができています。また緊急時の医療連携も確立している。		

グループホーム げんき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会参加により幅広い情報収集ができ、活用できるよう心がけている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の要望を受け、かかりつけ医との良好な関係ができています。	利用者や家族の要望により、それぞれのかかりつけ医による往診や受診を支援している。また、歯科医やリハビリ・マッサージも利用者の要望に応じて受けられることができるように支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師との連携が取れており、相談したり、訪問看護を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院との連絡を密に取り、早期退院に向け、状況に応じた対応または関係を築けるよう努力している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族との対話から重度化、終末期の対応を適切に図れるよう、かかりつけ医との情報の共有に努めている。	昨年度は2人のターミナルケアを家族と密接に連絡して行ってきた。高齢化が進み、認知度も進み、さらに車椅子使用の利用者が多くなってきている。重度化や終末期に向けた利用者や家族との支援の在り方などを共有していく必要がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定例会議において、急変時や事故発生時の対応を話し合い、初期対応の訓練も行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防団や消防署の指導を受け、定期的に消防訓練、避難訓練を行っている。	1回は、消防署の指導の下に、連絡網を使ったり、消火器を使ったりした避難訓練を行った。もう1回は、消防団の協力を得て、職員がモデルになって利用者運搬の訓練を行い、いろいろな災害についての対応を行っている。	



グループホーム げんき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	布パンツを前提とし、状況に応じ紙パンツやオムツ対応としている。またトイレでの排泄を重視し、適切な時間に声掛けを行っている。	利用者自身の人格を尊重し、快適に過ごせることができるように、布パンツ使用を進めている。立位がとれれば、おむつの使用は必要がないと考え、幾度もやってみて、布パンツに移行するようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄記録を付け、状況把握に努めている。また運動、食事、服薬による便秘解消の方法を探っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	まず声を掛け、希望を伺い、入浴して頂いている。	週に3・4日ほど風呂をたき、利用者の希望に応じて、時間内で入浴できるように支援している。入浴を拒否される利用者に対しては、シャワーや清拭でもすぐ対応できるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休んで頂く時間は決まっておらず、日中も夜間も見守りとしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬説明書があり、職員がいつでも閲覧できる。また定例会議において、利用者の状況の共有ができています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者との会話から、食事やおやつメニューを決めたり、縫い物や図書館の本の借入・庭の花の購入や手入れ等、趣味を楽しんで頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	畑作業や買い物に出かけ、日々の変化を大切にしている。また、希望があれば美容院や理髪店に出向いている。	利用者は普段、職員と一緒に庭に散歩に出かけたり、畑作業や買い物に出かけたりして気分転換をしている。また、自動車で行きたり、近くの美容院や理髪店に出向いたりすることができるよう支援している。	



グループホーム げんき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の状態に応じて、お財布をお預かりしている。買い物の際には、自分で支払って頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙は、いつでもやりとりできる状況にある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日の清掃や花瓶の水替え、鉢植えの水やりを、利用者と共に行なっている。また照明や室温の調節も利用者に向いながら設定している。	利用者が自分たちの家であると意識付けできるように、ホールの掃除や花の水替えなどが自分たちで行えるよう支援している。また、テーブルや椅子などの高さを変え、周囲の装飾にも気を配って、居心地のよいホールを目指している。新しくゆったりできるソファーが設置されていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーや椅子の設置により、自由に利用者同士の会話ができている。また、居室での時間も大切に頂けるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時にそれまで使っていた家財道具の搬入を声掛けし、本人や家族の希望に添った室内状況を作っている。	居室の清掃は、利用者でできる方には自分でするようにし、職員は過度なお手伝いにならないようにしている。利用者にそれぞれの思いの家具や持ち物を持ち込み、心おきなく過ごすことのできる居室づくりを支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレには手すりを設け、安全に配慮している。また、歩行器や車椅子がスムーズに移動できるよう、スペースの確保に気を配っている。		